

## 「通所リハと通所介護が地域で協働するために～通所系サービスの新時代を提案する～」

座長	岡野 英樹 (全国デイ・ケア協会 理事)
情報提供	染谷 和久 (全国デイ・ケア協会 事務局)
シンポジスト	真栄城一郎 (通所リハビリテーションセンター清雅苑 主任)
	塩手 公 (株式会社ツクイ埼玉・群馬圏本部長)
	能本 守康 (一般社団法人日本介護支援専門員協会 常任理事)

通所リハビリテーション（以下通所リハ）にとって大改革となった H27 年以降、現場では活動と参加に焦点を当て、心身機能へのアプローチに偏ることのないよう、より質の高いサービス内容への見直しが進められています。また新設された生活行為向上リハ実施加算や社会参加支援加算等により、「社会参加」をキーワードとしたサービスの計画的な修了が意識づけられてきました。これらはいずれも漫然と同一サービスを提供し続けることへの警鐘と言えます。

一方、修了後に移行するサービスとの連携も十分とは言えず、例えば通所リハを修了し通所介護に移行した場合、その後も安定した状態で暮らせているかは十分フォローしきれていないのが現状です。当シンポジウムでは、当協会が行なった通所リハ・通所介護の連携に関する調査研究の結果を踏まえ、「これから通所リハと通所介護が地域で協働するために」をテーマに、通所リハ・通所介護・ケアマネジャー各立場からのメッセージをもとに、新時代における通所系サービス協働のあり方を活発に討論したいと思います。